

北海道下川町

課題

本町においては、基幹産業の低迷などによって、人口減少や少子高齢化など、また、企業などにおいては、社会貢献や地球環境への配慮、地域貢献が求められている。

そこで、双方のニーズがマッチングする拠点づくりのための仕組みづくりが必要である。

実現を目指していく地域のイメージ

森林は、地域固有の財産であり山村地域の分散自立・地産地消・低炭素型社会創造に欠くことが出来ない地域資源である。

そうした地域資源（森林）を最大限活用し、森林体験や企業との森により企業との交流などを通して、地域の自給力と創富力を高める先行的・総合的な地域主権型モデル社会を目指す。

調査事業の概要

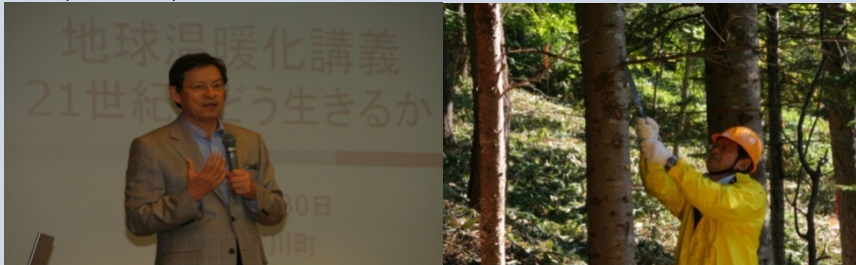
○企業ニーズ調査等：329社発送 回収率21%

○森林環境実践セミナー

開始日：平成22年9月30日～10月1日（1泊2日）

プログラム：講演会、森林体験、森林吸収測定等

参加者：21名



○「企業の森」展開のための、
コミュニケーションデザイン開発

○事業後のフォローアップ

- ・プログラムの充実
- ・コストパフォーマンス性の向上
- ・情報の発信
- ・人材の活用

対応策の提示

＜これまでのノウハウ、対応策＞

- ・50ha×60年伐期の循環型森林経営を確立
- ・都市住民を対象とした森林・林業体験ツアーの開催
- ・公共温泉に木質バイオマスボイラーを導入
- ・森林を活用するNPO法人の設立
- ・カーボン、オフセット制度を導入 など

＜調査事業によりとりまとめたノウハウ、対応策＞

- ・企業への的確な情報発信。
- ・企業の森の選定条件としては、北海道に本社や支店、工場などがあることがきっかけとなる可能性が高い。また、研修の形態としては、アウトドアタイプも望まれている。
- ・ツアーは、ユーザーの志向を的確にプログラムに反映し、洗練度を高めて行くことが必要である。

今後の展開として、セミナープログラムの充実を図り地元NPO法人等と協力しながら、森林環境実践セミナーを開催し、企業とのパートナー形成を目指す。

＜今回の調査により得られた新たな課題＞

- ・ストーリー性や魅力あるプログラム開発
- ・満足度の高いコストパフォーマンス
- ・情報の欲しい人への情報発信
- ・人材の活用